



特集 空き家対策

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.46 September.2019

contents

.....
巻頭随想
市町村リレー まちづくり夢づくり
苦言提言
地域シンクタンク
市町村の元気印



machijiman

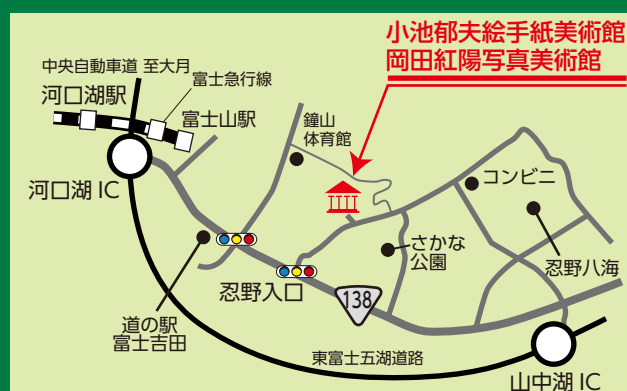
お問い合わせ先

〒401-0511 山梨県南都留郡忍野村忍草2838-1

TEL 0555-84-3222

FAX 0555-84-3320

HPアドレス: <http://shikinomori.webcrow.jp/index.html>
詳細についてはホームページをご覧ください。



シリーズ
ま・ち・自・慢

Oshino-Village
忍野村

開館15周年 岡田紅陽写真美術館・小池邦夫絵手紙美術館

VOL.46 September, 2019 machijiman

忍野村は、山梨県の南東部に位置し、南西に壮大な富士山を仰ぎ、北に杓子山、東に石割山に囲まれた盆地で、標高は936mの高冷地となっています。

その中にある、両美術館は平成16年にオープンし今年で開館15周年を迎えます。写真美術館の岡田紅陽が忍野村に足を踏み入れたのは、1916年のこと。雄大な「忍野富士」と対面し、その魅力に感動して以来、生涯を富士山の撮影に捧げました。また、絵手紙美術館の絵手紙創始者・小池邦夫は、「一人の心を感動させる手紙は万人をも動かす」という信念の下、1枚のはがきの中に詩・書・画、三位一体の表現世界を作り出してきました。

村では、開館15周年を記念して写真美術館では、令和2年2月22日(土)から3月26日(木)まで紅陽の作品の中から15周年にふさわしい作品を展示する紅陽展を開催します。また、小池邦夫絵手紙美術館では、令和元年10月17日(木)から令和2年1月5日(日)まで全国から絵手紙を公募した絵手紙展を開催します。この機会に、ぜひお立ち寄りください。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE

Vol.46 September.2019

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.46 September.2019

まち自慢

忍野村

02 巻頭随想

「実り豊かな生活文化都市」実現を目指して
中央市長 田中 久雄

04 市町村リレー

南アルプス市

08 特集「空き家対策」

09

特集1 山梨県の空き家対策について

12

特集2 良好な住環境と地域の活力向上を目指して

14

特集3 「快適で潤いのある生活を送れるまちづくり」を目指して

16

特集4 安心して暮らせる地域の実現に向けて

18

特集5 「暮らしと自然が輝く交流のまち」を目指して

20

特集6 安全安心で地域が輝くまちづくり

22 苦言提言

地方創生とまちづくり
国土交通省道路局道路交通管理課長
岸川 仁和

24 地域シンクタンク

26 市町村の元気印

28 自治 Q & A

31 市町村調査研究事業

34 がんばっていま～す。

36 はつらつ!!市町村職員

38 市町村振興協会たより

時の人

編集後記



表紙写真 山中湖花の都公園秋の彩り

山中湖村の秋、花の都公園の雄大な敷地には、コスモスや黄花コスモスが咲き誇り、富士山との共演が楽しめます。また、10月中旬からは紅葉を楽しむことができます。収穫フェアでは「さつまいもぼうとう」や「さつまいもソフト」も販売されます。
山中湖村で秋の味覚を堪能しつつ、富士山と花々のコラボレーションを楽しんでみてはいかがでしょうか。
【山中湖村提供】

「実り豊かな生活文化都市」

実現を目指して

田中久雄 中央市長



田中 久雄 (中央市長)

PROFILE

昭和23年1月2日生まれ(71歳)
昭和40年4月 1日 田富村役場奉職
平成14年9月21日 田富町教育長就任
平成18年4月 9日 中央市長就任
現在4期目の市政を担う

中央市は、県都甲府市に隣接し、市名のとおり山梨県のほぼ中央に位置しています。市内には富士川水系に属する釜無川、笛吹川が流れ、豊富な水と肥沃な大地に恵まれ、古くから水稲のほか、トマトやなす、きゅうりなど多くの野菜が栽培されてきました。山間地域の豊富地区では桃やスモモといった果樹の栽培が行われており、本市は農業が盛んな市といえます。

その一方で、優れた都市機能を併せ持ち、田富地区の甲府リバーサイドタウンや玉穂地区の医大南部土地地区画整理地といった大規模住宅地の周辺には大型商業施設が集まり、利便性の高い住空間となっています。

加えて、交通面では中央自動車道甲府南ICや中部横断道南アルプスICに程近く、また、市内には新山梨環状道路やJR身延線が通るほか、2027年に開業が予定されておりますリニ

ア中央新幹線の沿線となるなど、県内でも有数の交通の要衝です。

本市は、豊かな緑や四季折々の美しい自然環境と快適な都市空間が調和した、住みやすいと感じられるまちとなっています。

しかしながら、少子高齢化の進行による人口減少の流れは本市も例外ではなく、このまま人口減少が進めば、活力あるまちの維持が難しくなることから、平成28年3月に「中央市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、中央市の強みを最大限に活かして、さらなる住みよさを目指し、「住んで良かった」「住みたくなる」まちを実現することで、将来にわたって活力あるまちを維持していくために様々な施策を展開しています。

本総合戦略では、本市の人口動態の特徴である20代から30代の転出超過を食い止めるため、若い世代が子育てをしやすい環境をつくることを目指



市の名所 「山の神千本桜」



中央市上空からの市内全域と富士山

して、様々な事業に取り組んでいます。市の子育てサービスを広く知っていただき、もっと活用してもらえよう、市の新たな情報発信ツールとしてホームページの子育て関連の情報をまとめた「中央市子育てサイト」、スマートフォン利用者向けのアプリ「ちゅうおうし子育てアプリ」を始めました。また、今年度からは、本市に新居を構え

て定住する若者世帯へのサポートとして「中央市若者世帯定住奨励金事業」を開始しました。

教育の分野においては、児童・生徒が給食の時間を安全に安心して楽しんでもらえるよう、今年7月に「中央市学校給食センター」が完成しました。より衛生的に調理が出来るようドライシステムを導入、食物アレルギーのある児童・生徒が安心して食べられるよう、アレルギー食専用調理室を設置し除去食に対応したほか、調理作業を見学できる機能や災害時の炊き出しに対応できる機能など、中央市の食育の拠点としての活用が期待されます。

また、公共施設の体系的な見直しを図り、市役所庁舎の統合を行いました。本市は平成18年に玉穂町、田富町、豊富村の2町1村が合併し、県内13番目の市として誕生しましたが、市役所庁舎については、旧町村の3庁舎を利用した分庁方式を暫定的に採用してきました。その一方で、新たな庁舎の整備について市庁舎整備市民検討委員会から「1本庁舎2支所体制」とする提言をいただいたことから整備の検討を進め、今年5月に、市役所本館が供用開始となりました。市役所本館は、ユニバーサルデザインや市民の利便性に充分配慮し、最良の市民サービスが提供できる拠点として、また、自然災害に強く市民の安心安全を支える拠点として広く親しまれることが期待されます。

総合戦略については、今年度が計画の最終年度となっており、現在第2次中央市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を行っているところです。これまでに取り組んできた事業に加えて、さらなる地方創生に向けた戦略的な事業展開を推進



市役所本館

しながら、将来にわたって活力あるまちを維持できるように引き続き取り組んでまいります。

本市は、合併時にまちの将来像を「実り豊かな生活文化都市」と掲げ、新しいまちづくりを進めてきました。平成30年3月に策定しました第2次中央市長期総合計画において、それまでに地を耕し、種を植え、結実させた多くの「実り」を「豊か」に育むときと位置づけ、この将来像を引き継いで、さらに中央市の良さをより活かしたまちづくりを着実に実現してまいります。

市町村リレー

まちづくり 夢づくり

南アルプス市 43

MACHIZUKURI
YUMEZUKURI

1 はじめに

南アルプス市は、山梨県の西部、南アルプス山麓に位置する緑豊かな人口70,828人（平成27年国勢調査）のまちで、平成15年4月1日に、八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲

自然と文化が調和した 幸せ創造都市南アルプス



高山植物が咲き誇る山々

西町の4町2村が合併し誕生しました。総面積は264・14平方キロメートル、山梨県の面積の約5・9パーセントを占めています。冬は寒さが厳しく、夏は気温が高いという盆地特有の内陸性気候です。

本市を特色づけるのは、なんといっ

ても南アルプスの存在とその周辺の山地になります。本市のシンボルのひとつである「北岳」は、富士山に次いで日本第2位の高峰であり、その頂上は他の自治体と接していません。北岳と連なる間ノ岳、農鳥岳、仙丈ヶ岳など3,000m級の山々は本市の大きな財

産です。

また、南アルプスから流れ出る御勅使川、滝沢川、坪川の三つの水系沿いには生活圏域が形成されています。市街地や集落の間には果樹園地帯が広がり、本市特産のサクランボ、桃、すもも、ぶどう、柿などの果物が四季折々に生産され、フルーツ王国やまなしの一翼を担っています。

2 南アルプスユネスコエコパーク

本市の代名詞ともいえる南アルプスは、太平洋側の気候の影響を受けることから、夏は雨量が多く、冬は積雪が少ないという特徴があります。そのため、森林限界が高く、山頂付近には固有種を含めた高山植物のお花畑が広がります。

また、この植生豊かな南アルプスには特別天然記念物のライチョウやニホンカモシカが生息し、鳥獣保護区も広大な面積を占めています。



今、最も旬なシャインマスカット

このような貴重な動植物を含めた、豊かな自然は南アルプスの大きな特徴であり、平成26年6月には、山梨県、長野県、静岡県、静岡県の3県10市町村にまたがる南アルプス地域が、ユネスコエコパーク（生態圏保有地域）に登録されました。ユネスコエコパークとは、自然と人間社会の共生ができていくモデル的な地域で、地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶとともに、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みです。

ユネスコエコパークは、核心地域、緩衝地域、移行地域の3つのゾーンから構成されています。本市のシンボル「北岳」周辺は、厳格に自然を保護する核心地域に位置付けられ、拠点施設である芦安山岳館では、10市町村の情報発信と南アルプスの自然環境に関する企画展などを開催し、ユネスコエコパークの普及啓発に努めています。

また、緩衝地域の拠点施設として櫛形山に位置する「エコパ伊奈ヶ湖」は



南アルプスはライチョウ生息地の世界の南限である



様々なアクティビティを楽しめる伊奈ヶ湖周辺

昨年4月にリニューアルオープンし、学術調査や環境教育活動のほか自然体験プログラムをはじめとした大自然の魅力を感じて体験できる「楽しみの学びエリア」として、多くの方に利用されています。

3 子育てするなら南アルプス市

「子育てするなら南アルプス市」を目指し、多種多様な施策・事業に取り組んでいます。

妊娠・出産・産後の支援として、不妊治療費や産前産後ケアセンター利用費の助成、ベビーベッド・チャイルドシートの無料貸出、新生児おむつ代の支給、さらに、次代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、18歳までの子ども医療費窓口無料化、多子世帯

における保育料の第2子半額、第3子以降無料化の完全実施に加えて、児童生徒の安全な学びの場を提供するため、小中学校の大規模改修や放課後児童クラブの整備充実にも取り組んでいます。

今年度は、子育てをしやすいまちづくりを更に推進していくため、病児保育施設の整備を実施しています。これまでも県内全市町村での協定締結により、市外の病児・病後児保育事業の広域利用が可能となっていたところですが、より細やかな子育て支援として、11月からの開所を目指し、民間の医療機関とタイアップして、市内に病児保育専用施設を整備し、子育てと就労の両立がさらにしやすくなる環境を整えています。

4 ふるさと教育の推進

地域の自然を守り、ふるさとの文化や伝統を継承し郷土愛を育むことが、この地域の豊かさを守り次世代に引き継ぐために重要です。このため、本市では、子どもから大人まで、全ての人が、将来にわたって南アルプス市を創る人、南アルプス市とつながり続ける心を持つ人となることを目指して「ふるさと教育」を推進しています。

ふるさと南アルプス市を愛する心を育てるため、小中学校では本市にゆかりのある「小笠原流礼法」の体験活動

や南アルプス市の山々を舞台にした自然体験活動を学校教育に取り入れています。さらに、わかりやすい内容の社会科副読本「わたしたちの南アルプス市」を作成し、小学校3・4年生の学習で活用し、ふるさと学習に取り組んでいます。

また、平成29年度から「ふるさと〇〇博物館事業」に取り組み、従来から知られている文化財だけではなく、地域に眠っている様々な歴史的・文化的資源を市民協働で掘り起こし、これに新たな価値を付け、展示やインターネット上のデジタルアーカイブで公開しています。これにより、地域の歴史的・

文化的資源が「まちづくり」や「人づくり」に活用できる資産になり、市民がふるさとの歴史を知り、ふるさとを誇る郷土愛の醸成につながるものと期待



鋳物師屋遺跡出土品と「子宝の女神 ラヴィ」

待っています。

さらに、本年5月18日には、市の歴史、文化を次代に伝える拠点施設である「ふるさと文化伝承館」がリニューアルオープンしました。土偶のキャラクターによる全国どぐキャラ総選挙で優勝した「子宝の女神 ラヴィ」のモチーフである重要文化財「鋳物師屋遺跡出土品」の展示や、「御勅使川旧堤防」のガイダンス施設として、また、前述の「ふるさと教育」の場として、歴史文化の発信拠点施設となるよう大規模改修を行い、文化伝承の一翼を担う施設となっています。

5 小中一貫教育への取り組み

本市では昨年度、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根拠となる方針を定めた「第2次南アルプス市教育大綱」を策定しました。

その中の重要施策の一つとして、義務教育機関の9年間を通じた学習指導の継続性や生活指導の一貫性を効果的に保つため、小中一貫教育に取り組んでいます。今年度から八田小学校と八田中学校、芦安小学校と芦安中学校で小中一貫教育校がスタートしました。市内公立小中学校における児童生徒のより良い育ちと学びを支えるため、スタートした2つの小中一貫校での成果と課題を分析

し、今後も小中一貫教育を推進していきます。

6 健康・長寿のまちづくり

本市では、行政のみならず、企業・団体・農協・商工会・地域などが一つになって、市民の健康づくり、そして健康からまちづくりを推進していくことを目的に、「幸せ実感！南アルプス市健康リーグ事業」に取り組んでいます。

健康リーグの取り組みの一つである、健康ポイント事業では、市の健診（総合健診・人間ドック等）や生活習慣病予防教室、生涯学習教室、まちあるきなどの健康リーグ協賛イベントに参加すると、市商工会が発行する「アルピーカード」にポイントを付与できる「アルピーポイント引換券」が発券され、ポイントが満点になると、アル



市内各地で様々な団体が健康リーグに取り組んでいる

ピーカード加盟店で500円分の利用ができます。

その他、企業・団体、地域等のグループで、市民の健康づくりに積極的に取り組む事業を提案、実施すると、市から補助金の交付を受けることができます。

このような取り組みを通じて、各種団体が一体となり、市民各自の健康に対する意識向上を図っています。

少子高齢化・人口減少社会においては、高齢になっても地域で元気に暮らすこと、それ自体が「社会貢献」であり、健康を維持することは、個人と社会の双方にとってメリット（生きがい、豊かな生活、医療費の抑制など）があります。

南アルプス市は山梨県内の市町村としては初めて、スマートウェルネスシティ（身体の健康だけでなく、生きがいを持って生活できる状態を「健幸」と定義し、歩くことを基本としたまちづくりを目指す研究会）に加盟しました。今後も、地域の担い手である市民が、健康を通じて主体的に健康維持・社会参加するためのしくみづくりに取り組んでいきます。

7 恵まれた道路交通網を活かして

南アルプス市は、中部横断自動車道と新山梨環状道路が交差する優れた高

速交通網を持つ地域であり、限らない可能性を秘めたエリアです。

本市は、県都甲府市から自動車で約30分のところに位置しますが、首都圏や長野県からは、中央自動車道を経て市内にある中部横断自動車道の白根ICや南アルプスICを利用すると大変便利です。また、令和2年度に中部横断自動車道が全線開通すると、静岡県清水港からの時間的距離が飛躍的に短縮されます。さらに、2027年には東京―名古屋間のリニア中央新幹線の開業が予定され、新山梨環状道路を経由すればリニア駅の建設予定地へも数分という好条件にあります。こうした優れた立地条件を活かし、人の交流や物流が活発となるよう「新たな産業拠点の創出」に取り組んでいます。

8 おわりに

南アルプス市は、北岳を代表とする南アルプスの麓に広がる豊かな自然や四季折々の味覚が楽しめる特産の果実があります。これに加え、中部横断自動車道やリニア中央新幹線が整備されることにより、本市の可能性はさらに高まります。

この好機を逃すことなく、自然と共生する持続可能な理想郷を目指し、今後も効果的な施策・事業に積極的に取り組んでまいります。